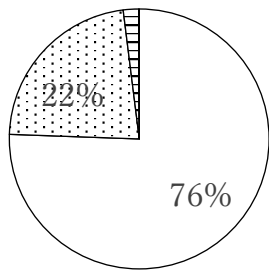


シンポジウムは満足いただけましたか



- 当てはまる
- ▨ 概ね当てはまる
- ▩ あまり当てはまらない
- 当てはまらない

《印象的な言葉》

- ・教育の原点は憧れ
- ・NEXT・優先順位・学校の再定義
- ・子どもたちに光を当て本質を見つける
- ・教師の一言
- ・教育は自信を持つためのツール

《シンポジウムについてのご意見・ご感想》

○教育のもつ意味、大切さ、すばらしさを改めて確認する時間となりました。子どもたちが憧れる先生、教頭になれるように、日々の業務に優先順位をつけて頑張りたいです。「変わる環境」に対応できる子どもたちを育てるために、学校ができることは何かを考えたいです。

○3名のシンポジストに共通していたことは、「志」。それが人との出会いを通して、広く、深くなっていたように感じた。まさに私たちは、それらを子どもたちの成長において生み出せる職にある。教師とは、すばらしい仕事だと感じている。元気と勇気がわいてきた。

○3名のシンポジストの皆様のご意見には、心から共感できました。たった一言がその子の人生に大きな影響を与えること、自分自身が楽しく仕事をする事、ライフスタイルを充実させること、様々な気づきがありました。子どもたちが「先生」という職業に対して憧れを抱けるようにしていきたいと思います。

○教師の言葉が、時には人生の方向を決定づける勇気を与える言葉となるという話を伺うことができ、逆もあり得ることを考えると、身が引き締まる思いをもつとともに、改めてやりがいを感じました。教頭という職務にあたっている身として、「Next!」の話はたいへん印象的、衝撃的でした。なかなかそのまま実践はできませんが、考え方として、本来やるべきことを大切にするために、やるべきでないことまでやり過ぎている部分に目を向けることの必要性を感じました。もともと、「ピンチはチャンス」という言葉が好きだったので、その言葉通りの実践を伺うことができ、たいへん興味深かったです。戦後19年で復興の象徴と言えるアジア初のオリンピックを開催した日本を支えてきた3本柱。時代が変わり、必要な、身につけるべき知識や技術が変わろうとも、この柱に関わる部分は、やはり今後もこれらを大切にしていきたいと改めて思いました。

○一番印象に残っているのは、管理職という立場を楽しむということ。自分自身が楽しいと感じることが、子どもにも大きな影響を与えているとは感じていたが、やはり、大変さばかりが目立っているようではいけないのではと感じた。今後の自分のライフスタイルにも大きく関わってきそう。また、保護者対応等、学校の立場や再定義を行っていく必要があるということにも納得ができる。それを、全国の学校で実践していく必要があると痛感した。苦しい職ではなく、楽しい職にしていきたい。

○一人一人に光を当てていくこと。褒めることの大切さ、優先順位を付けること、自分なりのビジョンを持って取り組むこと等、大変参考になりました。世の中は、大きく変わっています。学校も変わっていく、変えていくためのメッセージを発する際の根拠となる話が盛りだくさんでした。エピソードとエビデンス。どちらもあった内容でした。感謝の気持ちでいっぱいです。

○持続発展可能な社会づくりの担い手として児童生徒をどのように育てるかについても今後の指針となるようなお話をお聞きできて良かったです。働き方改革、意識改革を念頭に教師自身が楽しく仕事ができるように教頭として日々の学校運営に邁進し、努めてまいりたいと思います。

○ダイバーシティやインクルーシブが教育現場に変革を求めてきているなか、本シンポジウムテーマの一つ一つが重要なキーワードになると感じながら拝聴しました。多様な個々に寄り添い、調和のある社会人を育成する場である学校に携わる教員集団自体が高く豊かな指針を掲げ、新しい学校を創ろうとする意欲やプライドが必要とされているのではないかと痛感する時間となった。

○今の日本の学校は何でも屋になっていると思います。そこから脱却するためには、「できないものは、できない」とはっきり意思表示していくことの大切さを学んだように思います。すべての先生方が、やりがいをもって子どもたちと向き合っていくような学校づくりを目指して、日々の教頭としての仕事に邁進していこうと思いました。

○教頭の役割、やりがいについて改めて自問する機会となりました。また、子どもたちに良質な教育を行っていくためには、教員が楽しく生き生きと働くことが重要であり、日々子どもと向き合い授業改善、指導力向上に注力できる環境整備が必要であることを再認識することができました。4名の皆様からいただいたご示唆をこれからの仕事に生かしていきたいと思います。

○改めて教職員の仕事は崇高で、社会から期待されていると感じました。また、期待されているからこそ、クレームも多いし、仕事量もかなり多いのかなと思います。しかし、仕事が多いからこそ、疲弊してしまう教員も多く、教員志願者数も減少していると感じます。仕事を減らすか、教員を増やすかしていかないとこの国の教育自体が崩れるのではないかと感じる時があります。全体の奉仕者として頑張っている教員だけの力では限界があります。

○教頭職の立場ならではの苦労について共感してもらえるコメントがあり、少し気持ちが癒やされた。教育職でありながら教育に直結しない仕事をするのも多い面や多忙に加えて気苦勞が多いこと等、日本ならではののだろうか。教頭ひとりの心がけだけで職場環境を変えようとするのは不可能なことだからこそ、外部主催の研修会に個人で参加するものよりも、職場のチーム力をあげるための研修会を校内で行えるように、もっと自由な時間の使い方や研修会のあり方が生まれてきたらよいのではないかなと思う。

○教師であることの原点、教頭としての在り方、そしてこれから目指すべき方向について改めて考えさせられました。同時に、教師の言動がいかにかに人の人生に影響を与えるか、その責任の重さも痛感させられました。佐賀大会、素晴らしいです！この大会開催に関わってくださっている全ての方々に敬意を表します。

○子どもたちの憧れの存在になっているか。先生たちの目標となっているかなど、今の自分の姿がどうかについて考えさせられました。自分自身ももっと楽しく学校生活を送ること、そして、人生を楽しむ姿こそが、子どもたちや同僚の職員に夢や目標を見付けさせることにつながる。そして、これからは、勉強は楽しい、教えることは楽しいといった初心を忘れずに、子どもや職員の可能性に気付き、さらに、よいところを伸ばすことができるよう、タイミングよく褒めていきたいと思いました。

○私が目指す教師像は「子どもの心に火を灯す教師」であるが、「子どもに光をあてる」存在であることの尊さをあらためて感じさせていただきました。教頭になり、「わくわく感が見える学校」づくりを目指している今、今回のシンポジウムの皆様の話はとても刺激を受ける内容でした。教育者としての芯の部分をしっかり持ち、目の前の仕事に優先順位を持たせながら、その先の子どもの姿を思い浮かべ、わくわくできる自分でありたいと思います。

○時々、自分は何を志して教師になったのかと悩む時がありました。今日の4名の方々の貴重なご提言は、その迷いに救いの手を差し伸べていただけたように感じました。私たちは子どもたちの笑顔を守るために日夜奮闘しています。特に管理職として最前線で頑張っている教職員の方々に活躍していただける環境を整え、一緒になって子どもたちの成長を見守っています。子どもたちに光を当て、子どもたちの可能性を広げられる教師でありたいです。また、若い世代に教職を目指してもらえる学校の姿をつくりたいと感じました。

○様々な立場からお話をいただきましたが、どなたも教育に対して大きな期待を持っていらっしゃることに、そして、子供に関わる仕事に注力できるような状況を作らなければならないと感じていることがわかりました。持続可能な教育となるためには①学校は「学校教育を行う場」であることを明確化すること。②説明責任は「説明する責任であり、納得させる責任ではない」ことを徹底することであると思います。

○学ぶことの多いシンポジウムでした。「教育は尊い仕事。人の一生を左右する。」という中島先生の言葉から、改めて自分自身の仕事の意味を考えました。一人一人の子どもに光を当ててその子の良さを発見できる教頭でありたいと思いました。また、坪田先生の「教育とは本当の自分を持つためのツール」という言葉に、できるようになることに焦点を当てていく学校づくりの大切さを実感しました。竹下先生の「学校運営に関わることは本来楽しいことのはず」という言葉を忘れず、日々楽しんで校務運営に携わっていきたく感じました。

○坪田先生の「学校の役割」についてのお話が特に心に残った。保護者対応や調査回答等、いろいろな業務が多い中で、本来の教師の使命である「子どもと向き合う」ことが疎かになり、疲弊した姿を子どもに見せることで教職へのあこがれを失わせることは、大きな損失につながると感じた。学校本来の役割や立場を保護者や地域の方々に理解してもらうこと、先生方が生き生きと子どもと向き合えるための環境づくり（働き方改革）を進めることが、管理職として非常に大切であることを再認識した。

○竹下様の話を聞き、組織のリーダーを務める方はしっかりしたお考えをお持ちなのだと思心いたしました。シンポジウムとしましては、もう少し討議というか、一つのテーマでそれぞれのお立場から意見を述べ合う場面があってもよかったように思いますが、総じて学校職員への応援を頂いたように感じております。明日からまた頑張ろうという気にさせていただきました。

○中島氏の話に感銘を受けた。つらい時に自分の好きなことをすることで気持ちを紛らわすことから始まり、今や日本を代表する画家となられるまでの経緯について、強い信念を感じた。また、ゴルバト先生から受けた一言の重さについて、私たち教員の子供に対する一言の重さに似たものを感じた。中島氏の「子供たちに光を与え、その子の本質を見せてほしい」との言葉に、改めて教師の仕事の責務を感じた。